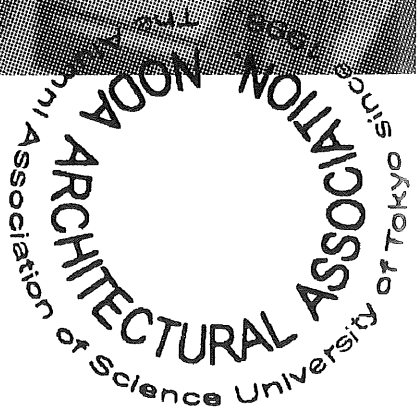




野田建築会会報 08 秋・09 春 合併号

N A A NEWSLETTER 08 AUTUMN / 09 SPRING

VOL.20 → VOL.21



野田建築会が発足して10年、新たな歴史を刻むために 理工学部建築学科卒業生の皆様へ、菊地利武会長からのご挨拶

野田建築会会員の皆様におかれては、益々ご健勝ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成20年5月17日（土）に開催された第6回野田建築会総会においてご推薦いただき、会長に就任しました昭和46（1971）年卒（理工学部一期生）の菊地です。

野田建築会は設立から10年以上が経過し、同窓会組織として新たな歴史を刻み飛躍すべく次の10年へのスタートを切り、会長として責任の重さをひしひしと感じています。

野田建築会のあゆみ

野田建築会は東京理科大学の野田校舎で建築を学んだ「会員の親睦をはかり、会員の研鑽を支援して、建築文化の発展に寄与する」という目的を達成するために、平成10（1998）年5月に発足した同窓会組織です。その発足は、理工学部建築学科卒業生が相互交流を通じて、いろいろな局面で協力し合える場として、是非、同窓会組織を立ち上げて欲しいとの熱い思いから、平成7年に退職された上原孝雄先生が、退職金の一部を同窓会設立資金として建築学科の教室会議に託されたことが契機となりました。

資金を託された教室会議の働きかけ、特に平成17年に退職された渡邊俊一先生のご尽力により、卒業生有志が同窓会設立準備会を結成。連絡先の整備、名簿発行の準備、会則の制定、設立総会の開催準備を経て、平成10年5月に設立総会を開催し、野田建築会をスタートさせることができました。あらためて、上原先生並び渡邊先生のご尽力に対し、心より感謝申し上げます。

同窓会としての主な活動

この10年間の当初から同窓会活動として、同窓生名簿

の発行、OBと語る会の開催、見学会の開催および野田建築会賞（NAA賞）の授与を行っています。

「同窓会名簿」は2年毎に発行してきました。その間、理工学部建築学科の同窓会組織築理会との交流の一環として、合冊名簿を発行しました。また、築理会とは親睦会の開催や総会後の懇親会への参加など、役員レベルではありますが交流を行ってきました。現在、野田建築会では個人情報保護法との絡みで同窓会名簿の発行は平成18年度版を最後に休止しています。

「OBと語る会」は、いろいろな業種・仕事で活躍している卒業生に実社会での経験を在校生にお話していただく催し物です。卒業生と在校生との交流を通じて同窓会の存在意義をご理解いただき、そのことが同窓会の発展に繋がればと考え、年1回開催してきましたが、平成19年度からは2回行っています。

「見学会」は当初、同窓生の参加を前提する催し物として企画しましたが、平日の開催ということもあり参加者が少なかったことから、在校生を対象とする建設現場、PC工場、技術研究所などの見学を行っています。

「野田建築会賞」は、学業だけでなくいろいろな分野で努力・活躍された在校生を表彰する制度です。建築学科教室会議において表彰者をご推薦いただき、毎年3月に行われる修了証書授与式の間をお借りして賞状と副賞を授与しています。大学では副賞のある表彰が少ないこともあり、この表彰制度は教室会議の先生方からも高い評価をいただいております。野田建築会の大切にしたい重要なイベントとなっています。

NAAサイトの開設

野田建築会では従来の同窓会活動のほかに新たな取組み



会長 菊地利武 (昭和46年卒)

を推進しております。それは「東京理科大学 理工学部建築学科同窓会NAAサイト」の立ち上げです。理工学部建築学科に限定した、完全登録制の卒業生（社会人）と在校生のコミュニケーションを形成するネットワークシステムです。同窓生相互の情報交換ツールとしても利用できます。是非、多くの卒業生に登録していただき情報交流の場として積極的な活用をお願いします。また、在校生の協力によりメールマガジンを発行しており、刻々変化する野田キャンパスの様子や建築学科に関する情報を発信しています。
<http://www.rikadaikenchiku.com>

厳しい運営状況が続く——存続に向けた協力を！

野田建築会は発足してから10年以上が経過し、新たな歴史を刻むべくスタートを切りました。現在、その組織は会員数が38回生、5,157名と5,000名を超えました。しかし、同窓会としては、今後も維持・発展できるか、あるいは消滅してしまうか、正念場を迎えているように思います。どちらの道を辿るかは、この数年の活動に懸かっています。同窓会を維持し発展させていくためには、活動を支える運用経費と人的パワーが必要不可欠です。

運営経費は会員からの会費収入が主要な財源となっておりますが、その額は年々減少しているのが実情です。同窓会を維持していくためにはこの減少傾向に歯止めをかけ、会費収入の増加を図り安定した運用経費を確保する必要があります。昨年度から、安定した会費収入確保のために新しい試みをスタートさせました。平成20年3月に学士課程を修了された同窓生に対しまして、平成20年度会費の事前納入をお願いしました。141名全員の方々から納入していただきましたが、その収入は同窓会の運営上、非常に大きな支えとなるもので心より感謝しております。学部卒業

野田建築会 第6期役員（平成20～21年度）

会長 菊地 利武 (昭和46年卒)
副会長 五十嵐洋也 (昭和53年卒)
事務局長 市川 文久 (昭和45年卒)
会計 齊藤 喬 (昭和45年卒)
会計監査 鈴木 治文 (昭和47年卒)、森下 誠 (昭和49年卒)

予定者からの会費の事前納入制度は、同窓会を支える貴重な財源であることをご理解いただき、今後も継続的に運用していきます。一方、会員からの会費納入についても増やす施策を練り、働きかけていきたいと考えています。

同窓会の活性化に向けて

同窓会は、運営を推進する役員・学年幹事とそれをサポートする同窓生の両輪が上手く回ることで初めて維持・発展できるものです。我々役員・学年幹事は、同窓会の運営に積極的に参画して、それぞれの役割・責任を果たさなければならないと考えます。まず、会合に出席することが基本です。我々が必要とする同窓会是我々が動かなければ作り上げることはできません。また、ご自身の周辺におられる同窓生に支援・協力を仰ぐ働きかけをし、強力なサポーターになってもらいましょう。私はその小さな積み重ねが同窓会の発展に繋がると信じています。

現在、野田校舎では在校生に野田建築会という同窓会組織があることをPRするための活動を積極的に展開しています。各研究室から選ばれた学部4年生、修士1、2年生の幹事が同窓会活動のサポートをしてくれており、OBと語る会の開催や会費の事前納入の実施等の原動力となっています。こうした活動を通じた在校生との繋がりが、将来、同窓会の牽引力を生み出すのではないかと期待する次第です。

皆様のご協力とご支援をいただき、野田建築会の新たな歴史を刻むべく努力を傾けてまいります。宜しく申し上げます。

東京理科大学工学部建築学科・教員在職期間

現職

武田 仁	昭和 46 年～
奥田 宗幸	昭和 52 年～
初見 学	昭和 57 年～
井上 隆	平成 02 年～
川向 正人	平成 06 年～
小嶋 一浩	平成 07 年～
衣笠 秀行	平成 10 年～
北村 晴幸	平成 14 年～
大宮 喜文	平成 15 年～
伊藤 香織	平成 17 年～
兼松 学	平成 18 年～
永野 正行	平成 20 年～

退職

名古屋隆之	昭和 45 年
宮内 康夫	昭和 45 年～昭和 46 年 (免職)
戸川 喜久治	昭和 45 年～昭和 50 年
星野 昌一	昭和 45 年～昭和 56 年
堀川 勉	昭和 45 年～平成 06 年
富澤 稔	昭和 45 年～平成 09 年
重倉 祐光	昭和 45 年～平成 11 年
野村 設郎	昭和 45 年～平成 18 年
奥平 耕造	昭和 46 年～昭和 47 年
森脇 哲男	昭和 46 年～昭和 48 年
三浦 道雄	昭和 46 年～昭和 56 年

井口 道雄	昭和 47 年～平成 20 年
村井 啓	昭和 48 年～昭和 50 年
大河原春雄	昭和 48 年～昭和 60 年
川越 邦男	昭和 49 年～昭和 62 年
上原 孝雄	昭和 50 年～平成 07 年
斎藤 平蔵	昭和 55 年～平成 01 年
石原 舜介	昭和 61 年～平成 02 年
若松 孝旺	昭和 62 年～平成 19 年
渡邊 俊一	平成 03 年～平成 17 年
中田 捷夫	平成 11 年～平成 14 年

永野研究室、始動！！

森元晴香（永野研 4 年）

2008 年 4 月、工学部建築学科に新しい研究室が誕生しました！ その名も永野研究室です。井口研究室の後を継ぎ、研究室を創設した永野正行教授は……



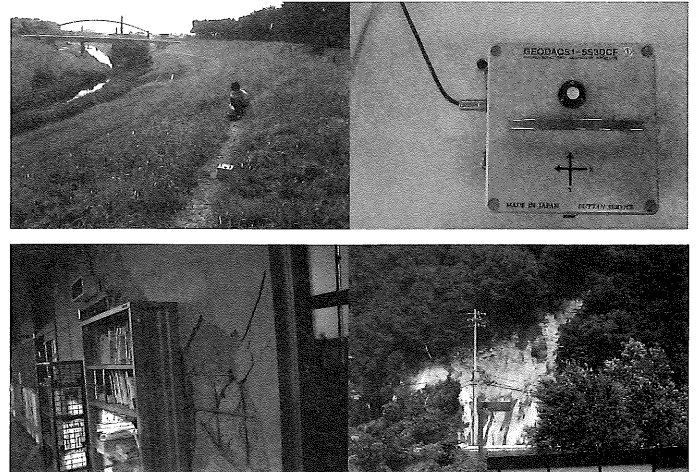
左：永野正行教授。右：学生と共に

- 昭和 61 年 3 月 早稲田大学工学部建築学科を卒業
- 昭和 63 年 3 月 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学専門分野修士課程を修了
- 昭和 63 年 4 月 鹿島建設株式会社入社、小堀研究室に配属
- 平成 10 年 10 月 『地盤の不整形性を考慮した地震波動伝播特性と構造物応答に関する研究』で早稲田大学学位を取得
- 平成 12 年 9 月 『兵庫県南部地震時の神戸市内における基礎地盤動及び地盤増幅特性』で日本建築学会奨励賞を受賞
- 平成 18 年 4 月 東京理科大学工学部建築学科永野研究室を創設

このような素晴らしい経歴を経て、2008 年 4 月東京理科大学工学部建築学科に永野研究室を開設されました。そんな永野教授の下に、建築学科 4 人の生徒が集結しました。先輩方がいないため、初めはわからないことだらけでしたが、永野先生のご指導の下、1 年間それぞれ精一杯研究を行いました。

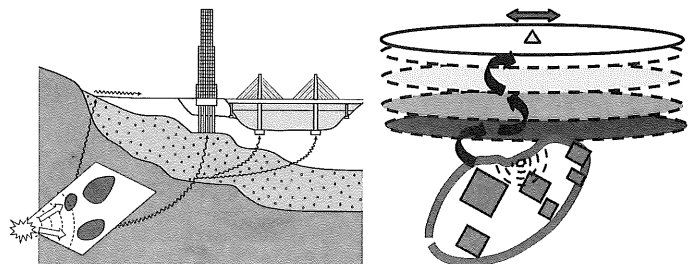
この 1 年間、研究室で行ってきたことは……

被害調査、微動・強震観測



上 (2 点)：運河地形の微動計測。下 (2 点)：2008 年宮城・岩手内陸地震の被害調査

理論展開・解析コード開発



左：震源断層から相互作用、建物の非線形挙動に至る一連の解析。右：3 次元薄層法による理論地震動評価

今後も永野教授の指導の下、地震の揺れ、建物の揺れを分析し、地震被害の拡大を防ぐことを目標に、研究を行っていきます。建築学科 OB の皆様、出発したての永野研究室を温かい目で見守ってください。

森 清敏 (もりきよとし)

1968 年、静岡県生まれ。1992 年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。1994 年、同大学院修士課程修了。1994～2003 年、大成建設株式会社設計部。2003 年～、MDS 一級建築士事務所共同主宰。2006 年～、日本大学非常勤講師



石丸 彰子 (いしまる あきこ)

1978 年生まれ。東京育ち、東京在住。建築という枠にとられず様々なジャンルで企画・デザインを行っている。一級建築士

年 2 回の OB と語る会。2008 年度第 1 回は、森清敏さんと石丸彰子さんのお 2 人のレクチャーで始まりました。

まずは森さん。森さんは 94 年に初見研究室を修了されていますので、私が奥田研究室の助手時代にも学生で残っていましたので、当時からよくお見かけしていました。

大成建設に勤められていたが、なぜ独立したか？ 学生時代にどのような過ごし方をされていたかなど、学生にとっては興味深い話を親しみやすく話されていました。

デビュー作の「王子木材工業本社ビル」では、通常サンプルとして使われる様々な種類の木材を、ファサードの構成要素として用いて CI 的な目的と日射の制御なども兼ね、ショールームの機能を果たしている点が合理的な印象を受けました。

続く「目白の家」、「各務原の家」ではクライアントの要望と敷地条件から導き出されたプロセスをお聞きしましたが、両方とも仕上げの素材や質感などの良さが際だっていました。また、写真はありませんが、「鉄の家」など構造から組み立てた仕事のお話もあり、設計の幅が広がっていく様子が伝わりました。

続いて小嶋研究室出身の石丸彰子さん。

建築の設計だけにとどまらず、その活動の幅広いのに驚かされました。

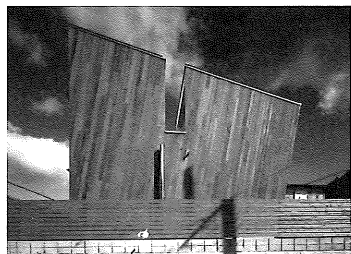
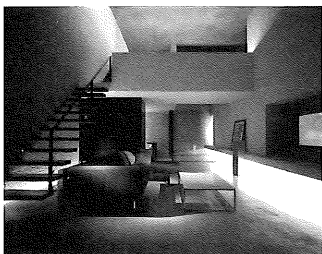
まず、今回いただいた最新のプロフィールをご覧ください。

「2002 年、修士論文・設計の一部として『同潤会記憶アパート

メント』<http://kioku.info>を開始。同潤会青山アパートメントの写真や映像の展示イベントを複数のメンバーと行い、過去 6 回で延べ 2 万人を超える来場がある。2008 年 10 月には大阪で地元の人々と共に、2009 年 9 月には東京・表参道に戻って大阪で得たものを活かす“オオサカ デ キオク トウキョウ ニ ツナグ”7 回目の展示を開催する。小嶋研では『ハノイプロジェクト』論文・現地調査・基本設計を行う。卒業後は北山孝二郎氏の K 計画事務所で約 3 年間商業施設の設計にたずさわる。在職中から個人活動を行い、退職後はフリーランスとして様々な企画、プロデュースに携わる。2008 年 8 月よりラジオ番組制作会社のイー・エー・ユー株式会社にてラジオ番組やラジオと連動したイベント・ウェブサイトの企画の仕事もしている。自身で企画し、企業へ営業に行っている。2009 年 4 月より 25 絃箏弾きかりんのホンダ STEPWGN を使用するツアーと連動したホンダウェブサイトの企画・ツアープロデュースを行っている」とあります。

当日も上記の他に知人の制作した映画の広報活動や、コンペの応募案、民家の改修などのプロジェクトを見せてもらいました。

そしてレクチャーでは話されませんでしたでしたが、私の記憶では彼女の卒業設計は廃校になった台東区の小学校の転用プロジェクトでした。こうしてみると一貫して記憶に残るものをテーマに扱い、それをどのように伝えるかと言うことで、現在進行形で活動が広がっている様子が伝わりました。



上左：目白の家。上右：各務原の家。下：王子木材工業本社ビル



上：同潤会記憶アパートメント展。中：同潤会青山アパートメント。下：カザスキオク



記者稼業は人に会うのが商売だ。駆け出し時代はIT産業、金融、自動車産業などを担当したが、1996年から旧建設省（国土交通省）担当になり、フリーになった2001年からも主に建設・不動産・住宅分野で取材活動が続いている。取材の楽しみはいろいろだが、取材先で野田建築会OBに出会えた時の喜びは、やはり格別なものがある。

2008年12月、同じ初見研OBの関雅也氏（84年院卒）と久々に会った。08年10月に完成した日本オラクル新本社ビル（東京・青山）の24階につくられた茶室を見学したときに、その設計者としてである。関氏は、清水建設で伝統建築の設計を統括してきた野田建築会1期生である木内修氏（71年卒）の後継者として、清水建設の設計本部教育・文化施設設計部のグループ長になっていた。

日本オラクルゆかりの理科大OB

米マイクロソフトに次ぐ世界第2位のソフト会社である米オラク

ルの日本法人、日本オラクルと筆者の付き合いは長い。日本オラクルの実質的な初代社長であった佐野力氏とは、ちょうど20年前に知り合い、オフィスビルのあり方について独自の見解を持っていた佐野氏に、筆者が勧めて連載記事「オフィス革命」を執筆してもらったことがある。当時、佐野氏は日本IBMに籍を置いていたが、連載記事の最終回に日本オラクルの社長就任を自ら発表したという忘れられないエピソードの持ち主だ。

佐野氏は、社長に就任すると、自分が理想とするオフィスづくりに取り組み、新しいオフィスが完成すると筆者を招待して案内してくれた。91年に開設した渋谷の本社オフィスは、受付に「社員犬」を座らせ、ワークスペースには多くの観葉植物と熱帯魚の巨大な水槽を配置する、当時としては斬新なプランだった。94年に移転した紀尾井町の本社オフィスでは、最新のAV機器を配置した茶室を配置し、有名な赤と青の会議室をつくった。

オラクル創業者、ラリー・エリソンCEOの自邸が、桂離宮を模した日本建築であることは有名だが、佐野氏の影響があったことは間違いない。実は佐野氏の息子が奥田研OBの佐野契氏（91年卒、松田平田を経て佐野契建築設計事務所代表）で、筆者も彼が理科大生だった時に一度会っている。

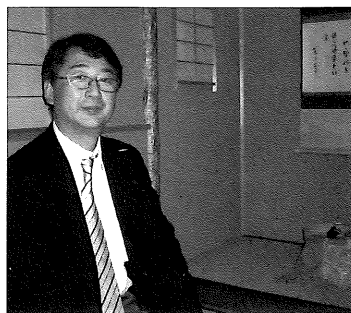
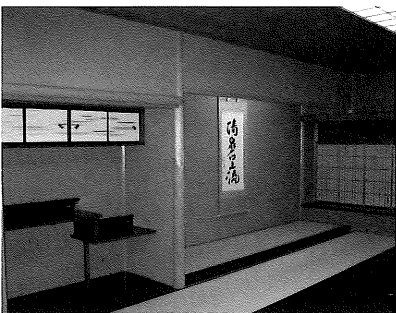
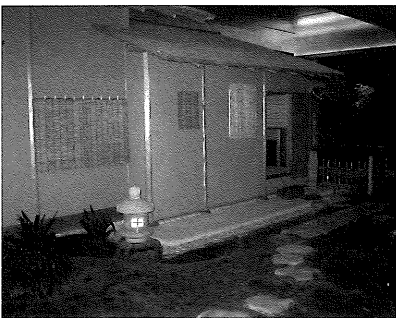
堂々とした素晴らしい仕事振りに感動！

日本オラクルが久々に本社オフィスを、筆者が取材で何度も訪問したことがあるハザマの旧本社跡地に移転するというので、再開発を担当した三井不動産の案内で完成前に見学した。すでに佐野氏は2000年に社長を退任しており、今度のオフィスにはあまり面白い趣向はないと思っていたが、事前見学では普通のオフィスビルだった。

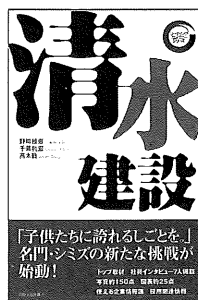
2008年11月に筆者が共著で執筆した出版文化社新書リーディングカンパニーシリーズ「清水建設」が出版された。それに合わせて「シミズ・ドリーム」と題した未来構想が発表されたのでホームページでチェックしていると、日本オラクル新本社の茶室が掲載されているのを見つけて驚いた。すぐに日本オラクルの広報に依頼すると見学できることになった。「事前に勉強したいので何か資料はないか？」と、関氏に数年ぶりにメールしたら、「設計したのは自分だから案内する」と、急ぎよ来てくれた。

「新本社オフィスにも、エリソンCEOの意向で茶室を作ることになり、相談を受けたときに『作るなら本格的なものをつくりましょう』と言ったら、こうなってしまった」と笑いながら、桧皮葺の屋根を指差した。

茶室の柱や壁のつくりで大工棟梁と関氏のこだわりが衝突したエ



左上：オラクル青山本社の24階につくられた茶室—
庭のコケも本物を使っている
左下：茶室の脇に作られた和室
右上：写真中央が関雅也氏、左が筆者、右は日本オラクル広報
右下：設計者の関雅也氏—茶室内にて



筆者が共著で執筆した本の表紙

千葉利宏（ちばとしひろ）

1958年、札幌市生まれ。1884年、東京理科大学理工学部建築学科卒業（初見研究室）。1884～2000年、日本工業新聞（現・フジサンケイビジネスアイ）編集局。2001年～、（有）エフプランニング設立。2005年～、日本不動産ジャーナリスト会議幹事。2009年～、社団法人IT記者会理事

ピノードや、神宮球場の花火大会見物を楽しむための工夫、3つの石灯籠探しの苦労話など、ここでは書ききれないほど面白い話を聞かせてもらった。これまで学生時代からほとんど仕事の話などしたことがなかったが、堂々とした仕事振りを見せてもらって、同じ野田建築会OBとして実に誇らしい気持ちだった。

理科大OBの経済人を取材する

経済記者として取材していると、現場でものづくりに携わっている人を取材する機会はどうしても少なくなる。企業であれば社長以下の役員や企画・戦略部門の責任者、役所でも新しい法律や制度づくりに携わる事務系官僚が多い。技術系官僚にも政治的影響力のある人はいるが、ほとんどが土木系出身者である。

野田建築会OBと取材で出会うのが少ないのはそんな事情がある。それだけに偶然に取材で会えたときの喜びは大きい。これまでに直接会ったのは、ミサワホームで08年に執行役員に就任した内

田和明氏（83年卒、初見研）と、マンション管理大手の伊藤忠アーバンコミュニティの執行役員である山本達也氏（84年卒、初見研）の2人だ。

内田氏は、5年ほど前に話題となった低価格企画住宅「リミテッド25」の開発者としてインタビューした。筆者と同期の山本氏は社長インタビューのときに補佐役の企画部長として同席した。07年6月の改正建築基準法施行の前後には、民間検査機関のUDI確認検査の専務である田辺恵善氏（79年卒）を紹介してもらって、いろいろと取材協力していただいた。

野田建築会も、2008年度で発足してようやく10年一。理工学部建築学科の卒業生はすでに5000人を突破しているものの、人的なネットワークづくりはまだこれからのようだ。野田建築会のネットワークづくりに多少なりとも貢献できればと考えている。

建築教育の現場から

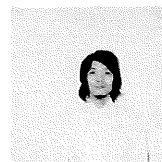
松本悠介（02年院卒）／中央アーキ

山本理顕、北山恒、飯田善彦、西沢立衛の建築家4氏のスタジオを中心とした実践的な建築教育を謳う建築都市スクールY-GSA（横浜国立大学大学院）。同校の設計助手として、新たな建築教育の試みを間近で体験してきた松本悠介氏に理科大との違いなどを聞いた。

——自身が修了した東京理科大学理工学部（以下、理科大）の修士課程と比べたとき、Y-GSAの教育システムの印象は？

松本 理科大との大きな違いは、Y-GSAでは修士設計がないこと。逆に言えば、2年間で4回ある課題すべてが修士設計です。集中力を持続するのはなかなか難しい。不謹慎かもしれませんが、修士設計のお祭りのような雰囲気や一発勝負の緊張感は個人的にはあったほうがいい気がします。

またY-GSAはエスキスが多く、週に2回。軌道修正の機会が多いという点はいいですが、学生によってはエスキスマで案を詰め切ることができなかつたり、内容が希薄になってしまうこともあるかもしれません。



松本悠介（まつもと ゆうすけ）

1977年生まれ。2002年、東京理科大学修士課程修了。2003年、上領大祐、坂下加代子とともに中央アーキを共同設立。2007-09年、Y-GSA設計助手

——求められるものの具体的な内容については？

松本 Y-GSAでは「建築」と「都市」に対する提案、つまり、建築から都市にまで及ぶ拡張性や両者を同時に思考することが求められます。必然的に社会に対して積極的に関わりを持つような提案が多くなりますから、エスキス中には「社会性」という言葉がよく登場しますね。講評会でも、建築的な視点よりも都市的・社会的な視点からのコメントが多い。

今は分かりませんが、僕が理科大の学生のときにはあまりその点を指摘されなかった気がします。今思えば、理科大は比較的的空間など、主に建築的な視点に比重が置かれていたのかもしれませんが。

——今の理科大生に期待することは？

松本 変に受け（評価）狙いをしないで、好きなこと、自分でいいと思えることを元気よくやり切ってほしい。それが最終的には案の強度にもつながるのだと思います。

張替那麻 (はりかえ なお)

1978年、千葉県生まれ。2004年、東京理科大学大学院建築学科修士課程修了。2004～2007年、株式会社ドラフト。カネボウの経営理念・ブランド開発、JOMO サンフラワーズの理念開発、大洋印刷の経営ビジョン構築、地中美術館のプロダクトのコピーライティングなど



塚田修大 (つかだ のぶひろ)

1969年、千葉県生まれ。1993年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。1995年、早稲田大学大学院修士課程修了。1996年、コロンビア大学大学院修士課程修了。1996～2000年、伊東豊雄建築設計事務所。2001年～、塚田修大建築設計事務所。現在、早稲田大学、東洋大学非常勤講師

第2回は張替那麻さん(小嶋研修了)と塚田修大さん(初見研卒)のレクチャーです。第1回に続き、小嶋研と初見研のOBの方の登場です。

このレクチャーは意匠・計画系だけに限られたものではないのですが、たまたま今年度は2つの研究室から選ばれましたが、今回も建築設計事務所と建築設計以外のクリエイターの組み合わせとなりました。

まずは張替さんから。78年生まれということですので、今まで一番若手のレクチャーです。株式会社ドラフトにお勤めされていた時期に、アートディレクションを通して企業の経営戦略を開発していくという仕事をされていて、その実例をいくつか見せていただきました。

彼の卒業設計は百貨店の設計だったと思います。当時から商品の販売から建築を見直すような事をやっていたわけですから、こちらも前回の石丸さん同様、ひとすじの道を感じました。

カネボウ(当時)の新ブランドの開発の話では女性向けのどんぶり屋さんの提案はパッケージからメニューまで、一貫したテーマで説明されました。

JOMOのバスケットボールチーム「サンフラワーズ」の仕事では、

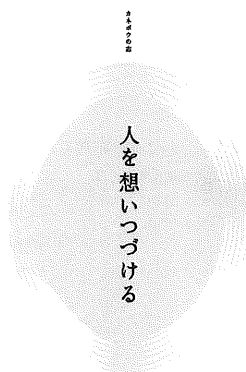
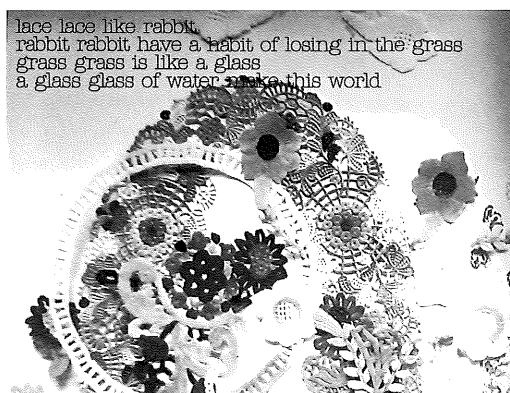
どうやったらチームが強くなるかをデザインから考えるという、初めは「難しそうな問題?」と思いましたが、鮮やかな手法でチームの意気向上をもたらしたようです。

続いて塚田さん。理科大を卒業後に早稲田大学、コロンビア大学、帰国後は伊東豊雄事務所を経て独立という、まさに建築家道を進んでいます。私も比較的年が近いので、よく飲むような機会もあるので、上記の言い方はひやかしているわけではありません。

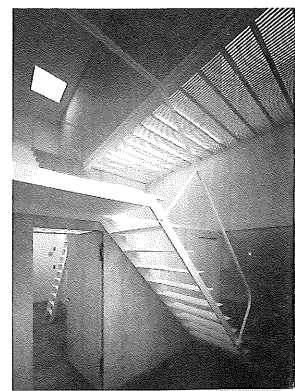
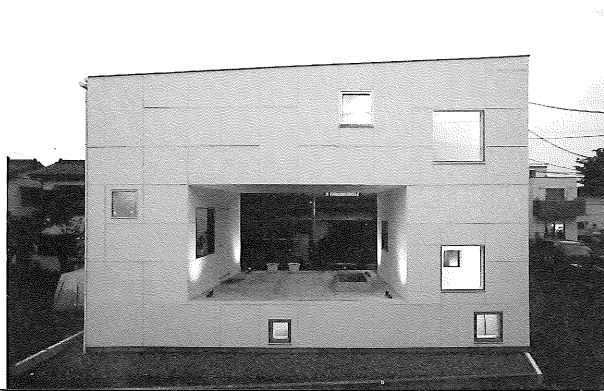
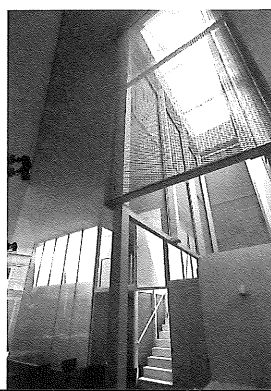
建築のメインストリームを歩んできた中で、それぞれから学んだバランス感覚と的確な自己分析が、作品の説明を明快にして淀みなく解説していただきました。

処女作の「関原の家」、続く「8/5」における構造と空間の構成の密接な関係は、それ以外の解答が無いのではないかと思わせるくらいの説得力を持っていました。また、「ホワイトロ」ではタイトルも示すように小さな住宅のお腹に穴を空けるというユーモラスな構成が、小住宅の問題に対してアイロニカルに答えたという印象を受けました。

お2人にはそれぞれに対して質問をしていただくなど、刺激的な対談であったと思います。

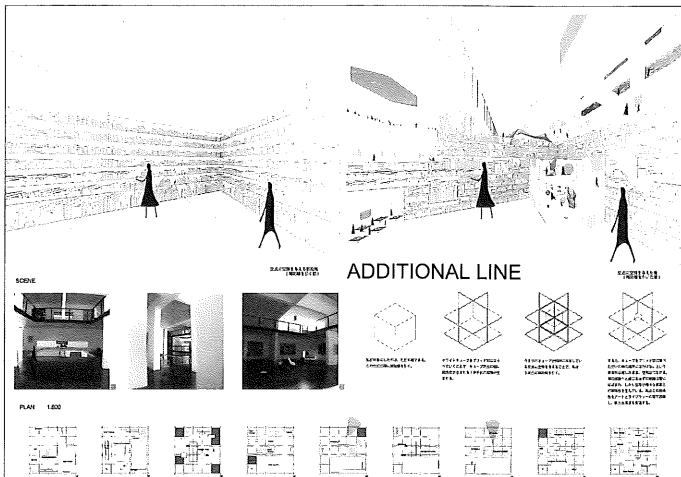


左: みづえ(雑誌) コピーライティング
中: カネボウ CI
右: JOMO sunflowers VI



2008年度卒業設計結果発表！

1等 今城 瞬



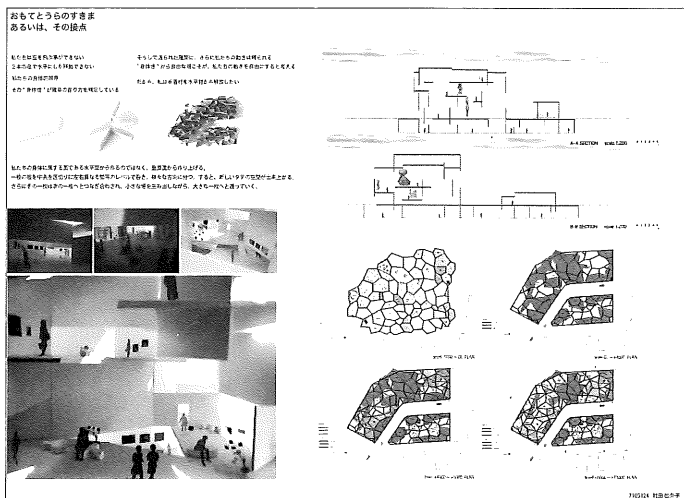
作品説明

建築とは何か、私は建築とは建築があることでその内側や外側で発生する関係性なのではないかと思ひ、そしてそう定義しました。数学の幾何学の問題で、これ以上解けないと壁にぶつかった時、ある場所からある角度で補助線を引くと、今まで目の前にあった風景は一変し、図形は鮮やかに新しい関係性へとシフトする。私は建築に補助線を引くことで、建築に新たな関係性を創造する。

受賞コメント

みなさん卒業設計お疲れ様でした。正直、こんな立派な賞をいただけるとは思ってなかったので、いまだに驚き続けています。これもみんなお手伝いさんたちがいたからこそこの受賞だと、日々、常々感じて生きています。自分で言うのもなんですが、頭が大分弱い方なので、この受賞で、建築は馬鹿でもできるってことが伝われば嬉しいです。ありがとうございました。

2等 村田加奈子



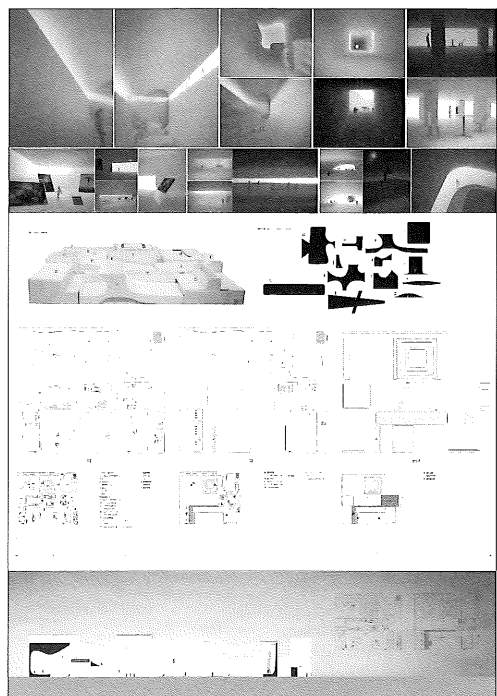
作品説明

通常、垂直面は「カベ」となって私たちの生活を規定している。身体に属する面＝水平面の集積としてではなく、1枚の垂直面が裂き分かれ独立した構造としてまず空間をつくりあげる。「カベ」から空間分節の指標へ開放されたこの場所は、私たちの身体性を越えた体験を与えてくれる。

受賞コメント

楽しんで卒制走り切れました、さらにこのような賞までいただけて大変嬉しいです。本当に沢山の人たちに支えられました。伝えるのが下手で悩んだ1年、最後に満足なプレゼンが出来たのも、その関わってくれた人たちに伝えたいという一心からでした。それに、迷走を続けた私を見守ってくださった小嶋先生、坂下さん感謝しています。ありがとうございました！

3等 高山祐毅



作品説明

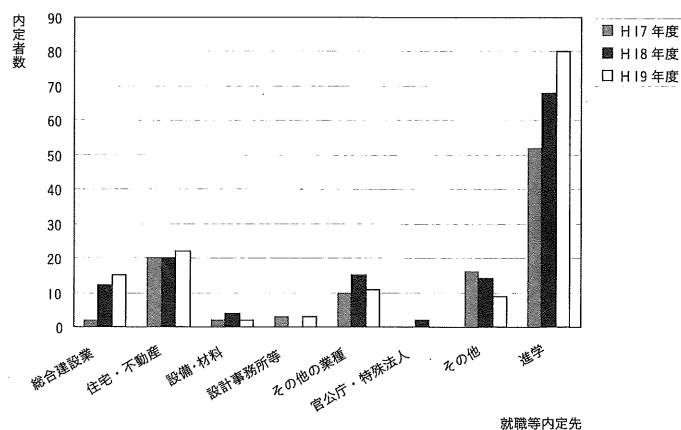
「消失と現出」。建築の輪郭を消失させることによって、そこに新たな世界が現れる。なんとかして東京という箱庭の中で、そのようなびやかな空間を獲得したい。それは、物質と現象の狭間に垣間見える世界。数値的な距離によって抑圧されない無限の内部。

受賞コメント

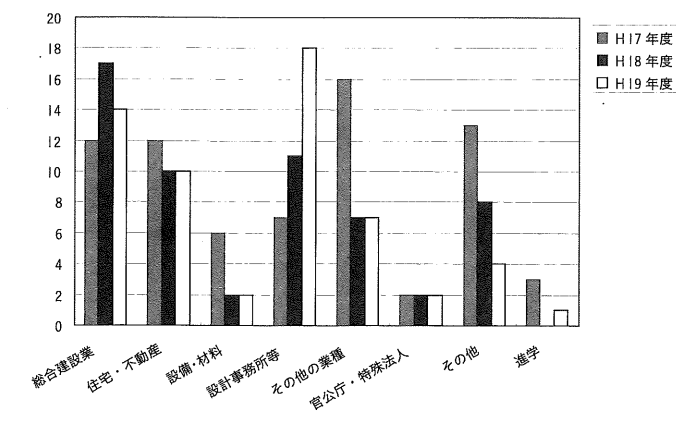
先ず、お忙しい中ご指導して下さった小嶋さん、坂下さん、そして泊まり込みで手伝ってくれた先輩、後輩、友人、一緒に卒業設計を最後まで楽しんで研究室のみなさんには感謝の意を表したいと思います。3階に飛ばされ、時には孤独と戦ったこともありましたが、なんだかんだいって最後まで楽しめたことは一生忘れないでしょう。色々ありました、本当に。

平成 17～19 年度 就職等内定先

学 部



大学院



NAA からのお知らせ

会費納入のお願い

現在、東京理科大学野田建築会会則に則り、平成 21 年度普通会員の年会費(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日)¥3,000 円を徴収しております。会費は会報の発行・OB と語る会の開催・NAA サイトの運営・見学会の開催・NAA 賞の授与など、有効に使われております。

当会の発展と活動の進展を期すために、本年度会費を是非とも納入いただくようお願いいたします。つきましては、会費納入のための郵便振替用紙を同封致します。なお振込みの際、封筒の宛名ラベルに記載されている ID 番号の通信欄への記入をお願い致します。

NAA サイトのお知らせ

皆様、サイトのご利用ありがとうございます。NAA では個人情報保護の点から名簿の発行を取りやめましたので、それに変わるツールとしてサイトを利用した情報交換を行っています。

まだ、登録されていない方はお早めに登録いただくようお願いいたします。

NAA サイトはこちら↓

<http://www.rikadaikenchiku.com/>

アドレス変更手続きのお願い

さて、卒業や進学にあたって、メールアドレスの変更も多い季節です。サイトの登録時のアドレスが変更になる方は、変更の手続きをお忘れなくお願いいたします。

方法は 2 通りあります。1 つはサイトにアクセスしていただいて、

ログインした後に、プロフィールの編集欄からご自分で変更可能です。もう一つはサイトのネット事務局宛にアドレスが変更になった旨をメールにてご連絡いただければ事務局サイドで変更します。

NAA ネット事務局：rikadaikenchiku@yahoo.co.jp

野田建築会 会報 08 秋・09 春 合併号

2009 年 3 月 19 日

編集：会報部会

編集委員：有岡三恵・小園涼子・佐貫大輔・高安重一・千葉利宏・前田智成・横山圭 (50 音順)

発行：東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

<http://www.rikadaikenchiku.com/>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

<お詫び>

08 年秋号の発行ができなかったため、変則的に 09 年春号との合併号としました。次号(09 年秋号)からは通常(年 2 回)発行に戻る予定です。